

概要

令和元年度末からの新型コロナウイルス感染症が社会に与えた影響は甚大で、このことは全国のシルバー人材センターにおいても、会員の伸び悩みや契約額の減少など様々なかたちでの影響が続いています。加えて改正高年齢者雇用安定法やインボイス制度への対応など新たな課題へも対応しながら、センターがいかに地域に参画し貢献するかをふまえ、人手不足分野での就業開拓や地域実情に即したニーズへの対応など、地域社会の課題の担い手として存在意識を高めるため事業に取り組んできました。

当センターでは、令和3年度も地域社会に貢献し、また期待されるべく様々な事業を展開するとともに、就業開拓並びに新規入会者の獲得に力を入れて参りました。また、6月には全国シルバー人材センター事業協会会長から優良団体表彰を、3月には大村市制施行80周年記念式典において市長から市政功労特別賞を受賞するなど、近年のセンターの活動を各方面に認めていただいたという記憶に残る年となりました。

事業実績としましては、令和4年3月末の会員数は754人で、前年度同期(731人)に対し23人(3.1%)の増、事業実績でも契約金額は366,172,866円で、前年度同期(341,659,534円)に対し24,513,332円(7.2%)の増と、概ねコロナ禍前の状況(令和元年度)に復調することができました。これらは市民の皆様や各事業所のご理解、市をはじめとする関係団体のご協力をいただいたおかげと感謝する次第です。

令和3年度事業計画に基づく結果については次のとおりです。

記

1. 活力ある組織の確立

(1) 公益社団法人としての的確な組織運営、財政運営の確立(自主財源の確保)

各専門部会・委員会においては、目的を明確に掲げ活発な活動を行い、各種施策へ反映することができた。

(2) 経営にあたる役員(理事等)の意識高揚の拡大

役員へは、センターの運営状況を理事会及び会報等により随時報告するとともに、各種機関誌等情報紙を配布し意識の高揚を図った。

(3) 地域(地区・班)における会員相互の連携による活動の推進

地区別の班長会議を開き、経営・事業状況の説明を実施するとともに、地域ボランティア活動の実施等について協議し、地域活動の推進を図った。

その結果、各地域班が主体となりボランティア活動を実施し、地域貢献及び会員相互の連携を深めることができた。

(4) 職群班における共働・共助の意識の高揚

職群班活動及びグループ就業等を通じ、課題等の共有化や共働共助意識の高揚を図った。

(5) シニア層を対象とした就労サポート機能の強化

就労サポートの強化を図るために、会員向けの現状の就業状況や求人状況が表示される情報端末機を玄関ロビーに導入した。

2 安全の徹底と適正就業の推進

(1) 安全確保と事故防止に向けた安全パトロールの実施と指導強化

安全対策委員会による安全パトロールを毎月実施した。また、9月には県シ連との合同パトロールを実施し、安全就業の指導を行った。

(2) 安全意識の高揚と自主点検・自己管理の徹底

安全就業に関する研修会を2回開催し、会員の安全・適正就業、高齢者ドライバーの交通安全意識を高めることができた。また、派遣業務における自動車運転については、職場での事前チェックを徹底した。

(3) 健康管理のための研修充実と健康診断受診の奨励

安全研修会時に健康管理講座を実施し、健康への意識を高めた。

(4) 入会時や入職時及び経験年数に応じた教育・各種研修の実施

派遣会員に対しては、新規就業時又は就業年数に応じた研修を実施した。

3 就業機会の拡大と会員力の向上

年間契約目標金額 325,000 千円に対し実績は 366,173 千円で、達成率は 112.7%となった。

(1) 会員のスキルアップ、ニーズに合った研修講座の開催

草刈機取扱い、子育て支援員養成、パソコン講習会等を実施し、会員のスキルアップを図った。

(2) 地域のイベント等を活用したセンター事業のPR

新型コロナウイルス感染拡大に伴いほとんどの地域行事が中止となったが、各地域においてボランティア清掃等を行い、地域貢献をPRすることができた。

(3) 地元メディアを活用した就業確保のPR

市広報紙、ケーブルテレビ、新聞折り込チラシ等により広報啓発活動を実施し、会員獲得及び事業獲得に努めた。

(4) 人手不足分野や今後需要が見込まれる分野における企業等との連携

長崎県シルバー人材センター連合会主催の企業説明会において、市内企業に対し当センターを紹介しPRすることができた。

(5) 高年齢者の就業機会、特に事務部門の確保のため、職業安定機関等との連携

ハローワーク及び民間の求人情報等を見分し、就業機会確保の参考とした。

4 会員の拡大

年度末目標会員数 760 人に対し実績は 754 人で達成率は 99.2%となった。

(1) 市民を対象とした魅力ある講習会の開催による会員確保

市民を対象とした講習会や講座を実施し、センターの活動や魅力を伝えることができた。

- (2) 身近なメディア及び会員のアイディアを活用した PR の展開
継続的にタウン誌やケーブル TV で PR を展開した。また、ケーブル TV の協力でセンターの特集番組を制作放映し、センターの活動を PR することができた。
- (3) 会員による積極的な入会促進（一人一会員）
入会説明会参加者 181 人のうち、53 人(約 30%)が会員からの声掛けによるものとの回答があった。
- (4) 女性会員及び夫婦会員の増へ向けた展開(令和6年度目標：男女比 38%)
女性会員増と女性会員の活性化施策として女性協議会の設置を図った。
女性入会者数は 50 人で、年度末女性会員数は 252 人、女性会員割合は 33.4%となり、前年度末(31.5%)より 1.9 ポイント増加した。
また、年度末夫婦会員は 37 組で新たに 9 組が夫婦会員となった。
- (5) 高齢者雇用安定法改正に伴う会員確保の充実
センターは働くだけでなく、新たな仲間との様々な活動や地域貢献等による充実した時を過ごすという面を知ってもらう活動を展開した。

5 シルバー派遣事業の確立

- (1) 派遣先との連絡調整を深め、派遣事業への理解を求める
事業所へ定期的に出向き情報交換につとめた。
- (2) 労働安全衛生法等への対応
労働安全衛生法に基づき、県内で初めて衛生委員会を組織し、衛生管理活動の推進を図ることとした。

6 社会奉仕活動等

- (1) 就業やボランティア活動を通じて地域社会に貢献し、生きがいや喜びにつなげる
10 月には市内公園 2 か所(81 人参加)、春期には各地域班が主体となつてのボランティア活動(120 人参加)を実施し、地域への貢献を PR するとともに会員間の交流を図った。
- (2) 互助会と連携した事業(行事)の検討
互助会活動の計画・実施に協力し、会員相互の交流を深めることができた。
- (3) 環境事業(剪定くず処理等)に関わる調査研究の継続
剪定くず等の再利用化研究を継続して実施し、環境に配慮した事業運営を行った。